

EFEKTIVITAS PENGGUNAAN MODEL INDUKTIF KATA BERGAMBAR DALAM MENINGKATKAN PENGUASAAN KOSAKATA BAHASA JEPANG

Rizky Rismandi

1200191

ABSTRAK

Penguasaan kosakata bagi pembelajar bahasa asing merupakan hal penting. Untuk berkomunikasi, pembelajar harus menguasai dan memahami kosakata dengan baik. Akan tetapi, dalam suatu bahasa, kosakata yang ada sangat banyak jumlahnya. Hal itulah yang menjadi hambatan bagi banyak pembelajar. Oleh karena itu, untuk meningkatkan penguasaan kosakata, diperlukan model pembelajaran yang tepat. Model induktif kata bergambar merupakan model pembelajaran yang bisa siswa gunakan secara mandiri. Tujuan dari penelitian ini adalah untuk mengetahui efektivitas model induktif kata bergambar¹ terhadap peningkatan penguasaan kosakata bahasa Jepang. Metode yang digunakan dalam penelitian ini adalah metode eksperimen murni. Desain penelitiannya adalah *Pretest-Posttest Control Group Design*. Sampelnya adalah 40 orang siswa SMA Negeri 10 Bandung kelas X tahun ajaran 2015/2016. Dengan masing – masing kelas, 20 orang untuk kelas eksperimen dan 20 orang untuk kelas kontrol. Instrumen yang digunakan adalah tes dan angket. Dari hasil analisis data, nilai rata – rata kelas eksperimen sebelum diberikan perlakuan adalah 44 dan setelah diberikan perlakuan diperoleh nilai 97 dengan t hitung sebesar 2,90 dengan $db = 35$ pada taraf signifikansi 2,03 (5%) dan 2,72 (1%). Karena t hitung lebih besar dari t tabel maka hipotesis kerja (H_k) dalam penelitian diterima bahwa model induktif kata bergambar efektif dalam meningkatkan penguasaan kosakata bahasa Jepang. Berdasarkan hasil angket, lebih dari setengah responden setuju bahwa model induktif kata bergambar efektif untuk meningkatkan penguasaan kosakata bahasa Jepang dan juga dapat memudahkan siswa dalam mengingat kosakata bahasa Jepang.

Kata kunci: Model Induktif kata Bergambar, efektivitas, kosakata

THE EFFECTIVENESS OF PICTURE-WORD INDUCTIVE MODEL TO IMPROVE AND MASTERING JAPANESE VOCABULARIES

Rizky Rismandi

1200191

ABSTRACT

Mastering vocabulary is important for foreign language learners. To able to communicate, they would have to master and understand the vocabulary well. However, there are a lot of vocabularies in every language and it would become some hindrances for them. So, to be able to improve and mastering the vocabularies, they need the correct teaching model. Picture-word inductive model is a model that can be used by student all alone. The purpose of this research is to get to know the effectiveness of picture-word inductive model¹ to improve and mastering the Japanese vocabularies. The method of this research is the pure method. The research design is Pretest-Posttest control group design. The sample is 40 students of 10th graders of SMA Negeri 10 Bandung of academic year 2015/2016. In each class consists of twenty students for experimental class and twenty students for control class. This research instrument are test and questionnaire. Based on the research result, before the treatment is given to experimental class, the average value is 44. And after the treatment was given to experimental class the value is 9, with $db = 35$ in significant level 2,03 (5%) and 2,72 (1%). Because t calculation is higher than the t table, the hypothesis (H_k) in this research is accepted so that picture-word inductive model is effective to improve and mastering Japanese vocabularies. According to the questionnaire, half or more students are agree that picture-word inductive model is effective to improving Japanese vocabularies and also can help the student to memorize the Japanese vocabularies.

Keyword: Picture-word inductive model, effectiveness, vocabularies.

日本語の語彙の暗記する能力の向上における
ピクチャーワードインダクティブモデル使用の効果

リズキ・リスマンディ

1200191

要旨

何の外国語であっても、必ず語彙の数は多い。日本語の語彙の習得は言語学習者にとって大事なことである。しかし、言語では語彙の数が多く、学習者にとって、語彙を習得するのが難しくなる。そのため、語彙の暗記する能力を向上させるために、学習でモデルの使用が必要である。ピクチャーワードインダクティブモデルは学習者が自習で使用されるモデルである。本研究の目的は語彙の暗記する能力の向上に対してピクチャーワードインダクティブモデル¹使用の効果进行分析するためである。本研究の方法は実際実験研究で、本研究のデザインは *Pretest – Posttest control group design* である。本研究の対象者は2015/2016年度バンドン第10国立学校の1年生の40名で、実験クラスとコントロールクラスに分けてそれぞれの20名である。データの収集はテストとアンケートである。データの分析によって、実験クラスの処置前の平均点は44、処置後は97点であった。t得点は2,90であった。自由度は35で表のtは5%の有意水準で2.03、1%の有意水準で2.71である。t値は5%の有意水準に表のtより高く(2.90 > 2.03)、ピクチャーワードインダクティブモデルについて語彙の暗記する能力に対する有意差があるということが分かる。アンケートの分析に基づき、ピクチャーワードインダクティブモデルの使用は語彙の暗記する能力をさせることができ、簡単に語彙を暗記できると示す。

キーワード : 語彙、ピクチャーワードインダクティブモデル

A. はじめに

何の外国語であっても、必ず語彙の数は非常に多い。初級の日本語の学生は 1500 – 2000 語彙を暗記しなければならない(Sudjianto dan Dahidi, 2012:113)。話すことは日本語学生にとって、一つの困難だと思われる。なぜなら、学生の語彙を暗記する能力は少ない。

語彙を暗記する能力を高めるのが非常に大事なことである。そのため、言語の教師として、日本語の学生の語彙を暗記する能力を高めるのは一つの義務である。日本語の学生の語彙を暗記する能力を高めるために、適当な教授法が必要である。ピクチャーワードインダクティブモデルは一つの教授法である。この教授法で、学生は自分の語彙の能力を知られる。

上記の背景で、バンドン第 10 国立学校の一年生の語彙を暗記する能力をピクチャーワードインダクティブモデルを使用の影響を調べるためである。それに、ピクチャーワードインダクティブモデルについて、学生の印象を調べるためである。

B. 本研究の目的

本研究の目的は次のようである。

1. 語彙を暗記する能力を高めるために、ピクチャーワードインダクティブモデルの使用の影響を調べるためである。
2. 実験クラスの学生とコントロールクラスの学生にピクチャーワードインダクティブモデルを使用して、語彙を暗記する能力調べるためである。
3. ピクチャーワードインダクティブモデルを使用した後、学生の印象調べるためである。

C. 研究の方法

本研究の方法は実験研究である。実験研究というのはコントロールする状態に Y 変数に対して X 変数影響試す努力の研究である (Sukmadinata, 2005 : 57)。本研究で使用されたデザインは *Pretest – Posttest control group design* の純粋実験研究であ

る。つまり、本研究で実験クラスとコントロールクラスを使用した。 *Random sampling* を使用した本研究のサンプルは全 40 名である。実験クラスのサンプル人は 20 名であり、コントロールクラスのサンプル人も 20 名である。

データを得るために、研究の方法はテストとアンケートである。研究の初めはサンプルに事前テスト(*pretest*)を行った。事前テストの後、ピクチャーワードインダクティブモデルをやり、実験をして、事後テスト(*posttest*)を行った。最後は実験クラスでアンケートを集めた。

D. データの処理

1. テスト

テストの分析は次の公式を使用する :

a. 予備表を作る

No.	X	Y	x	y	x ²	y ²
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
1						
2						
Σ						
M						

b. X 変数と Y 変数の平均点を計算する。公式は次のようなである。

$$M_x = \frac{\sum x}{N_1} \qquad M_y = \frac{\sum y}{N_2}$$

M_x = 実験クラス (x) の平均値

M_y = コントロールクラス (y) の平均値

$\sum x$ = X 変数の合計点数

$\sum y$ = Y 変数の合計点数

$N_1 = X$ 変数のサンプル数

$N_2 = Y$ 変数のサンプル数

- c. X 変数と Y 変数標準偏差を計算する。公式は次のようなである。

$$Sd_x = \frac{\sqrt{\sum x^2}}{N_1} \qquad Sd_y = \frac{\sqrt{\sum y^2}}{N_2}$$

$Sd_x = X$ 変数の標準偏差

$Sd_y = Y$ 変数の標準偏差

- d. X 変数と Y 変数標準誤差を計算する。公式は次のようなである。

$$SEM_x = \frac{Sd_x}{\sqrt{N_1-1}} \qquad SEM_y = \frac{Sd_y}{\sqrt{N_2-1}}$$

- e. 標準誤差を連合を計算する。公式は次のようなである。

$$SEM_{xy} = \sqrt{SEM_x^2 + SEM_y^2}$$

- f. t 得点を計算する。公式は次のようなである。

$$t_o = \frac{M_x - M_y}{SEM_{x-y}}$$

- g. t 得点に対する解析する。

t 得点 $>$ t 表 H_k (作業仮説) は受け入れた。

t 得点 $<$ t 表 H_k (作業仮説) は拒否された。

- h. 自由度 (db) を計算する。公式は次のようなである。

$$db = (N_x + N_y) - 2$$

2. アンケート

アンケートを分析するために、使用される公式は次のようである。

$$P = \frac{f}{N} \times 100\%$$

P = 答え者に答え回数の割合

F = 答えの答え者数

N = 答え者数

E. 分析及び解釈

研究の結果に基づき、データの分析は次のようである。

表 1

事前テストの結果

	実験クラス	コントロールクラス
平均点	44	42
標準偏差	173.3	136
標準誤差	39.8	7.15
標準誤差を連合	40.43	

上記の表は事前テストの結果である。上記の表に基づきピクチャーワードインダクティブモデル使用する前に、実験クラス (X 変数) の事前テスト平均点が 44 である。一方、コントロールクラス (Y 変数) の事前テスト平均点が 42 である。計算の結果に基づき、t 得点 0,06 それに db=35、t 表(5%)=2,03、t 表(1%)= 2,72 ということがわかった。t 得点は t 表より低いから、作業仮説 (H_k) が拒否され、ゼロ仮説 (H₀) は受けられた。つまり、処置としてピクチャーワードインダクティブモデルを使用する前に実験クラス及びコントロールクラスの有意義の相違がないと言える。

表 2

事後テストの結果

	実験クラス	コントロールクラス
平均点	97	83,5
標準偏差	31	82,75
標準誤差	1,63	4,35
標準誤差を連合	4,64	

上記の表は事後テストの結果である。上記の表に基づきピクチャーワードインダクティブモデル使用した後、実験クラス (X 変数) の事後テスト平均点が 97 である。一方で、ピクチャーワードインダクティブモデルを使用せずに学習したコントロールクラス (Y 変数) の事後テスト平均点が 83, 5 である。計算の結果に基づき、t 得点 2, 90 それに $df=35$ 、 t 表(5%)=2,03、 t 表(1%)= 2,72 ということが分かった。t 得点は t 表よりもっと高いので、作業仮説 (H_k) が受けられた、ゼロ仮説 (H₀) は拒否された。そのために、実験クラス及びコントロールクラスの有意義の相違あるということが分かった。実験クラスに事前テストの結果と事後テストの結果が違ふ。つまり、実験する前に学習者の語彙の暗記する能力はあまり良くないが、実験した後、学習者の語彙の暗記する能力がだいぶ良いと言える。それより、作業仮説 (H_k) が受けられた。なぜなら、語彙の学習のうちにピクチャーワードインダクティブモデルを使用しなかったクラスの学習者の能力とピクチャーワードインダクティブモデルを使用したクラスの学習者の能力は有意義の相違があるからである。

そして、語彙を暗記する能力に対するピクチャーワードインダクティブモデルの使用はどのぐらい結果があるのを知るために、*normalized gain* 平均点を計算する。*normalized gain* 平均点を計算した後、以下の表で解釈する。

表 3

学習の結果の基準

<i>Normalized Gain</i> 距離	結果の基準
0,71 – 1,00	非常に結果がある
0,41 – 0,70	結果がある
0,01 – 0,40	あまり結果がない

計算した結果に基づき、実験クラス *normalized gain* 平均点は 0,9 点である。学習の結果の基準に基づき、ピクチャーワードインダクティブモデル使用したの学習は非常に結果があるということが分かった。そして、コントロールクラスの *normalized gain* 平均点は 0,5 点である。学習の結果の基準に基づき、ピクチャーワードインダクティブモデルを使用しなかったの語彙の学習は結果があるということが分かる。つまり、学習にピクチャーワードインダクティブモデルを使用するのは使用しないよりも良い。

表 4

アンケートの結果解釈

0%	いない
1% - 5%	ほとんどいない
6% - 25%	一部いる
26% - 49%	半分以下
50%	半分
51% – 75%	半分以上
76% – 95%	かなり多い
96% – 99%	ほとんど全部
100%	全部

(Sudijono, 2011 : 65-66)

それから、アンケートのデータの分析によると、だいたい答え者は語彙を暗記する能力を高めるためのピクチャーワードインダクティブモデルの使用に対して良い印象と思われる。学習者は語彙を覚えるため、ピクチャーワードインダクティブモデルの使用では非常に助けられるということが明らかになった。

F. 終わりに

本研究の結論は次のようである。

1. 実験クラス (X 変数) の事前テスト平均点が 44 である。一方、コントロールクラス (Y 変数) の事前テスト平均点が 42 である。計算の結果に基づき、 t 得点は t 得点 0,06 それに $db=35$ 、 t 表(5%)=2,03、 t 表(1%)= 2,72 ということがわかった。 t 得点は t 表より低いから、作業仮説 (H_k) が拒否され、ゼロ仮 (H₀) は受けられた。つまり、処置としてピクチャーワードインダクティブモデルを使用する前に実験クラス及びコントロールクラスの有意義の相違がないと言える。ピクチャーワードインダクティブモデル使用した後、実験クラス (X 変数) の事後テスト平均点が 97 である。一方で、ピクチャーワードインダクティブモデルを使用せずに学習したコントロールクラス (Y 変数) の事後テスト平均点が 83, 5 である。計算の結果に基づき、 t 得点 2, 90 それに $db=35$ 、 t 表(5%)=2,03、 t 表(1%)= 2,72 ということが分かった。 t 得点は t 表よりもっと高いので、作業仮説 (H_k) が受けられた、ゼロ仮説 (H₀) は拒否された。そのために、実験クラス及びコントロールクラスの有意義の相違あるということが分かった。実験クラスに事前テストの結果と事後テストの結果が違う。つまり、実験する前に学習者の語彙の暗記する能力はあまり良くないが、実験した後、学習者の語彙の暗記する能力がだいぶ良いと言える。それより、作業仮説 (H_k) が受けられた。なぜなら、語彙の学習のうちにピクチャーワードインダクティブモデルを使用しなかったクラスの学習者の能力とピクチャーワードインダクティブモデルを使用したクラスの学習者の能力は有意義の相違があるからである。

2. 実験クラス事後テストの結果によれば、学生の語彙を暗記する能力は高めるようになった。語彙を暗記する能力を高めさせるため、ピクチャーワードインダクティブモデルの影響があるということが分かった。そのため、語彙の学習でピクチャーワードインダクティブモデルを使用するのは結果がある。
3. アンケートのデータの分析によると、だいたい答え者は語彙を暗記する能力を高めるためのピクチャーワードインダクティブモデルの使用に対して良い印象と思われる。学習者は語彙を覚えるため、ピクチャーワードインダクティブモデルの使用では非常に助けられるということが明らかになった。

H. 今後の課題

本研究ではピクチャーワードインダクティブモデルの使用が語彙を暗記する能力を高めるかどうか調べたものだった。そのため、学習は日本語の学習者と日本語の教師と次の著者に提案をあげる。その課題は次のようなである。

1. 学生に

ピクチャーワードインダクティブモデルは暗記する能力を高めることができるから、語彙の学習の中で使用したほうが良い。

2. 日本語の教師に

ピクチャーワードインダクティブモデル使用は以前日本語でまだ使っていなかったので、今興味があれば使い、正しく修正されたほうが良い。

3. 次回の研究者

本研究について完備するのは良いことである。本研究には不足ことが多いから、次回の研究者はよくに研究しなければならない。